

株式会社ファミリーマート御中

夢の掛け橋募金 2022年度第2~4四半期報告書

国連WFP ミャンマー連邦共和国・ウクライナ・スーダンにおける緊急支援



World Food
Programme

特定非営利活動法人

国際連合世界食糧計画WFP協会

はじめに：ご支援の御礼

国連WFPは、飢餓をゼロにすることを使命に活動しています。

平素より国連WFPの活動に温かいご協力を賜り、
誠にありがとうございます。

ファミリーマートのお客さまや、各店舗の皆さまのご理解と
ご協力により、ミャンマー、ウクライナ、スーダンの3国への緊急支援
として「ファミリーマート夢の掛け橋募金」2022年度2～第4四半期より、
51,819,570円のご寄付をいただきました。

皆様からのご寄付は国連WFPを通じて人々の命へとつながっています。
これからも温かいご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。



国連WFPの活動 ①

緊急支援



©WFP/Angeli Mendoza



紛争や災害などの緊急事態が発生し、現地政府から支援の要請があると、国連WFPは直ちに職員を派遣。

世界中48時間以内に最初の食料を届けることを目指し、その後も迅速に支援を拡大。

輸送・通信支援



©WFP/Alexander Joe



人道支援における「通信・物流のリーダー」として、他の国連機関のみならずNGOの物資輸送も受託。毎日トラック5,600台、飛行機100機、船30層が稼働、災害で交通が途絶した場合にもゾウやロバ等の動物の力も借りて救援物資を確実に輸送。



©WFP/Silke Buhr

国連WFPの活動 ②

学校給食支援



途上国の子どもたちに無償で学校給食を提供。栄養状態を改善に加え、教育機会を拡大。

母子栄養支援



赤ちゃんや幼児、妊婦、授乳中の母親に栄養たっぷりの特別な食品を配布し、栄養状態を改善。将来を担う子どもの発育を助け、未来の発展を。

自立支援



道路・井戸などの公共設備や、農地などの整備者に報酬の代わりに食料を提供。食料の心配がなく、作業完了で社会全体が改善。

ご寄付の使途について

ウクライナ緊急支援
第2四半期：10,883,331円
第4四半期：10,000,000円



スーダン緊急支援
第4四半期：2,950,000円



ミャンマー緊急支援
第2四半期：10,883,331円
第3四半期：10,619,166円
第4四半期：6,483,742円



WFPウォーク・ザ・ワールド
2023ご協賛
横浜・名古屋・大阪会場

WFP
Walk
the World



プログラムスタート時からのご寄付総額：581,962,944円

寄付使途内訳：

- ・ 学校給食支援 約4億429万円 ※約13,476,462人分の学校給食に相当
- ・ ミャンマー緊急支援 約1億3,418万円
- ・ ウクライナ緊急支援 約5,452万円
- ・ パキスタン洪水支援 約666万円
- ・ スーダン緊急支援 295万円



ミャンマー連邦共和国：支援地の状況



急性食料不安の人口：約1,520万人（人口の4人に1人以上） ※2022年9月時点

国連WFPの支援者数：約270万人 ※2022年9月時点



ミャンマー連邦共和国：支援地の状況



- 長引く内戦によりミャンマー全土で**約90万人**が避難民となっており、そのうち52万1,000人以上が軍による占領以降に避難しました。
- コロナ禍以前も、健康的で栄養価の高い食事を取ることは難しく、2019年には**10世帯のうち4世帯**しか栄養ニーズを満たす食事をとれておりません。
- 5歳未満の子どもの**3人に1人**近くが発育阻害（年齢の割に身長が低い）に苦しんでおり、消耗症（身長の割に体重が少ない）は全国で7%に達しています。

2023年サイクロン・モカの影響

2023年5月のサイクロン・モカにより、すでに極めて不安定な状況下にあった数百万人の人びとの生活状況をさらに悪化しました。食料価格の高騰や洪水による食料備蓄・家畜・シェルターへの被害のため、緊急支援のニーズは拡大しています。



©WFP/Su Myat Yadanar



国連WFPの支援（ミャンマー）



緊急支援



2023年5月のサイクロン・モカ発生から3週間以内に、国連WFPは南西のラカイン州・中部のマグウェ地方域における39.4万人の人々に緊急の食料支援を実施しました。対象となった人々の多くは国内避難民として生活しており、サイクロン発生前も緊急支援を受けていました。

学校給食支援



学校施設が大きく被害を受けたラカイン州において、7月から10万人の子どもたちを対象に給食支援を再開しています。2022年9月段階では、国連WFPは全国の2,400校の子どもたち245,100人に現場での給食支援や、高エネルギービスケットの持ち帰り給食支援、学校給食のための現金による支援などを行いました。

母子栄養支援



生後6ヶ月から5歳の子ども132,600人、妊娠中・授乳中の女性・少女26,600人に対して、栄養支援を継続的に行いました。この支援には、発育障害の予防や消耗症の予防と治療に関する活動も含まれています。

自立支援



2022年、インフラ、灌漑支援、土地開発、家庭菜園などのコミュニティ開発と連動した条件付き現金支援を実施しました。9月はシャン州北部やザガイン管区において 1,230 人を支援しました。



ウクライナ：支援地の状況



©WFP/Antoine Vallas

急性食料不安の人口：約1,100万人（人口の3人に1人） ※2023年6月時点

国連WFPの毎月の支援者数：約300万人



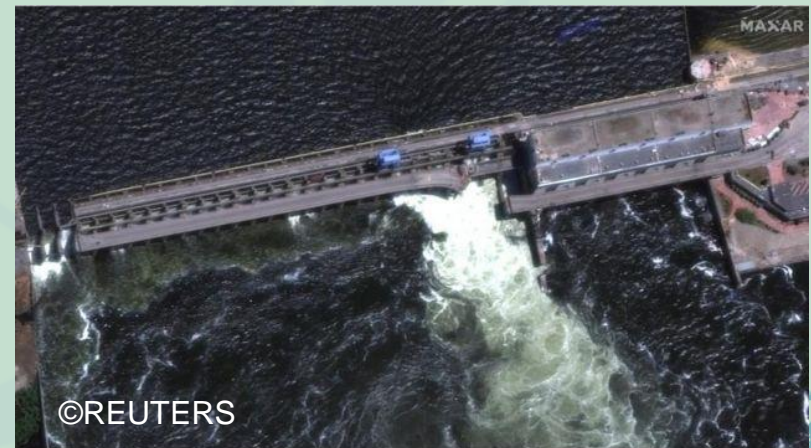
ウクライナ：支援地の状況



- 長引く戦争によって国内の食料生産とサプライチェーンを混乱しており、とりわけ東部と南部の多くの地域で食料へのアクセスが不安定になっています。
- 全国的に食料価格は2022年3月と比較して**27%**上昇し、ウクライナの**耕作地の25%**が使用されておられません。
- 現在ウクライナは世界最大級の地雷原と化しており、農村部の**4世帯に1世帯**近くが、戦争のために農作業を減らしたり止めたりしたと推定されています。

カホフカ・ダム破壊

2023年6月のカホフカ・ダムの破壊によって、数千人の人々の水や食料へのアクセスが遮られ、また周辺地域の灌漑システムや農業への被害が予想されています。ヘルソン州はウクライナの中でも小麦の生産量が多い地域であるため、食料価格の高騰が懸念されます。



国連WFPの支援（ウクライナ）



緊急支援



カホフカ・ダム破壊による洪水で避難・被災した人々に、パンや豆の缶詰など、すぐに食べられる食料9万2,000食を配給しました。インフラ攻撃によるエネルギー危機に対応するため、冬季より毎月全国で300万人以上の人々に食料や現金支援を行い、現在も約85%の食料支援が最前線に近い地域で行われています。

輸送・通信支援



国連WFPが主導するロジスティクス（輸送）・クラスターは、ウクライナの190以上のパートナーに代わって、調整と情報管理サービスを提供し、人道的貨物の輸送と保管を促進しています。

学校給食支援



国連WFPは、国の学校給食プログラムの枠組みの下、国内避難民の家庭を中心にキエフ地域の58校で毎日の学校給食を支援しており、約12,000人の小学生に給食を提供しています。

自立支援



FAOおよびスイス不発弾基金と協力の上、地雷や不発弾の有無の調査を行い、必要な場合は整地し、また小規模農家や農村部の家族に直接支援を提供することで、農地を解放し、食料生産の再開と生計の立て直しを支援しています。



スーダン共和国：支援地の状況



急性食料不安の人口：約1,900万人の予測 ※2023年5月時点

国連WFPの支援者数 (2022)：約930万人



スーダン共和国：支援地の状況



- 2023年4月15日より勃発した紛争によって、今後さらに最大250万人が飢餓に陥ると予想されています。また、肥料や種子の価格高騰により、小規模農家への影響が懸念されます。
- スーダン内外の紛争によって、少なくとも160万人の人々が避難民となり、近隣国のエチオピア、エジプト、南スーダン、チャド、中央アフリカ共和国等に避難を余儀なくされています。
- 現在は銀行サービスのアクセスが制限されているため、スーダン全土で現金不足が広がっています。食料価格は4月から5月にかけて13%上昇し、現在も上昇を続けています。
- 2023年以前も、夏季の豪雨と洪水、そして紛争の継続により、スーダンの農村家庭の生命線である農作業に支障をきたしていました。穀物生産量は過去5年間の平均を30%下回り、ほとんどすべての家庭では、収入の3分の2以上を食費に費やしています。



国連WFPの支援（スーダン）



緊急支援



国連WFPは5月3日に国内における活動を再開して以来、西部ダルフールの最も支援が届きにくい14州において、6月現在、約81万7,000人に緊急食料・栄養支援を行いました。5月27日、紛争が始まって以来初めて、ハルツーム州で約2万人に緊急食料支援を提供しました。今後、590万人への支援の拡大を予定しています。

輸送・通信支援



国連WFPは、通信状況が困難な地域において、すべての国連機関およびNGO・NPOを対象に緊急通信サービスを提供しています。また、UNICEF、WHO、UNHCRなどの国連機関に対し、燃料、倉庫の確保、輸送などの共通サービスを提供しています。

学校給食支援 母子栄養支援



2022年中、スーダン全土の16の州で、6～59カ月の子ども173万人以上、および妊娠中・授乳中の女性27万2,000人に対し、栄養不良の治療と予防のための栄養支援を行いました。国連WFPはまた、15州で160万人の就学中の子どもたちに、学校給食や持ち帰り配給を支援しました。

自立支援



紛争が始まる前、国連WFPは農業生産性の向上、大規模な学校給食プログラムの確立、生計機会の拡大などを通じてコミュニティの回復力を高める長期的な農業解決策に取り組んでいました。セキュリティの状況が改善次第、自立支援に関わるプロジェクトを再開予定です。



WFPウォーク・ザ・ワールド 2023



WFPウォーク・ザ・ワールド 2023の詳細はこちら



皆さまのご支援により、本年もチャリティーウォーキングイベント「WFPウォーク・ザ・ワールド」を無事開催いたしました。

横浜・名古屋・大阪の3会場で行い、約182,875人分の学校給食を途上国の子どもたちに届けることができました。

